

令和6年度 学 校 評 価 自 己 評 価 表

- 1 学校教育目標 自ら学び 自ら考え 協働できる 心豊かな子供の育成
- 2 経営理念 ミッション：「地域を愛し、地域に愛され、信頼される」学校 ビジョン：「子供の成長の姿で教育の成果を見せる」学校
- 3 経営目標・評価項目・評価・達成状況 【評価基準 達成度＝達成値÷目標値×１００ A（達成度１００％以上） B（達成度１００～８０％） C（達成度８０～６０％） D（達成度６０％未満）】

	評価計画					自己評価							担当
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための手だて	評価指標	目標数値	7月	1月	達成度	評価	短期経営目標の達成状況	改善方策		
						達成値	達成値						
確かな学力	意欲を持ち主体性を発揮する子供の育成	1. 基礎的・基本的な学力の定着を図る	○ぐんぐんタイムでは、漢字や言葉・計算の復習を行い、学力の定着を図る。 ○デジタル教材やICTを効果的に用いた分かりやすい授業づくりや自分の考えを伝え合い深め合う授業づくりに取り組む。	①国語・算数・理科の単元末テストにおける学級平均到達度の割合 ②全国学力学習状況調査の到達度で、全国平均を上回る児童の割合	①低87% 中85% 高80% ②60%								
		2. 算数科中心とした授業研究を通して、児童の学ぶ意欲を引き出し、資質・能力の向上を図る	○既習内容と比較させることで学びをつなげ、根拠を持って考えさせる。 ○児童が自分の考えをもち、それを説明すること（発言やノートへの記述）ができるようにするための教材づくりや環境設定、ファシリテートを行う。	児童アンケートにおける肯定的評価の割合（アンケート項目） ①授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。 ②授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。 ③学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。 ④学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。 ⑤算数の勉強は好きだ。 ⑥算数の勉強は大切だ。	80%								
豊かな心と健やかな体	豊かな関わり合いができ、たくましく生きる子供の育成	3. 生徒指導・特別活動を中心に児童の主体的な行動を充実させ、自己肯定感を育てる	○特別活動を通して、自分・学級・学校・地域をよりよくするために、自ら取り組める環境を整えることで、主体的・自治的な行動を促す。 ・児童会執行委員会を中心に挨拶運動を行い、毎月「挨拶名人」の表彰を行う。 ・運動会等の行事に向け一人一人に目標設定させるとともに、目標の振り返りを行う。 ・学校全体で「友達のいいところ見つけ」を継続的に行う。	児童アンケートにおける肯定的評価の割合（アンケート項目） ①レベル5（自分から 相手に聞かえる声で 相手の目を見て 立ち止まって）の挨拶をすることができている。 ②自分の決めた目標に向かって努力できた。 ③周りの人のために自分で考えて行動することができた。 ④友達が頑張っていたり困っていたりした時に、協力することができた。 ⑤友達のよいところをたくさん見つけることができた。	85%								
		4. 児童の意欲を引き出し、目標やめあてをもって自ら体力や生活を向上させようとする児童を育てる	○児童自らが運動に参加できる様、執行委員会を中心に異学年遊びを計画する。 ○体育委員会と連携して、その時期に合った外遊びを全体に提案する。 ○水泳、持久走大会時等に、昨年度自身の記録や目標とを比較させ、自分で目標(数値)を立てさせ、運動への意欲を持たせる。 ○生活ががんばり週間や保健教育（指導）を通じて、健康的で規則的な生活習慣の必要性を考えさせ、その定着を図り、基礎体力向上の基盤をつくる。	児童アンケートにおける肯定的評価の割合 ①自分から進んで体を動かすことができる。 ②自分の心や体のために、早ね早起き朝ごはんを続けることができている。	①90% ②80%								
信頼される学校	保護者・地域に信頼される学校づくり	5. 一人一人の児童が安心して伸び伸びと力が発揮でき、保護者が行かせたいと思える学校を創る	○学校便りや学級通信を通して、学校の取組や児童の様子を積極的に発信する。 ○普段から児童の様子をしっかりとつかみ、学級懇談や個人懇談で児童や学級の良さや伸ばしてほしいことなどを保護者に伝える。	学期末保護者アンケートの ①「お子さんを三和小学校に通わせて良かったと思う」 ②「子どものことについて、先生方に気軽に相談できる」の項目における肯定的評価の割合	①90% ②90%								
		6. 地域教材・人材の活用で、地域への関心や貢献の意欲を高める	○総合的な学習の時間の地域学習や本物体験事業を中心に、地域のよさにふれさせる。 ○地域人材を活用してふれ合うことで、地域への愛着をもたせるとともに、地域に貢献しようとする気持ちを育む。	「地域の良いところ・自慢できること」を2つ以上かける児童の割合（1～4年） 「地域のために役立つことをしたいと思う」の項目における肯定的評価の割合（5・6年）	85%								